高砂

特42
460

東京圖書館

和書門	音樂類	函	四七架	三號	三冊

東京帝國大學圖書館藏

高砂
と始つ抵寝（ネヤ）く日も行き湊
久しき　軍記に
松浦を九州肥後
玄國阿蘇つ宮の神主友成と
我事也我いまは都をこそ
此度思ひ立ちやこそよりはじめよ
吹なきへ播磨の浦をも一見

きりやと名ぶ（ろりう）掘家（ほりや）もくれた
野路（のぢ）をぞ（ぞう）ぞ思（おも）ふ浦の浪
永路長岡（ながぢながおか）の書尾（しるび）もいくのきあん
跡（あと）まもぐ（ぐう）いさ白雲（しらくも）とぞ（ぞう）
思（おも）ひ播磨（はりま）の高砂の浦（うら）より
きりく（ぐう）
吹（ふ）わて尾（を）上（うへ）の鐘も響（ひびき）あり

波（なみ）の震（ふる）て嶽（たけ）かくれ（ぐう）ぞ（ぞう）て塩（しほ）ぐち
ひ（ひ）あき（ぐう）初（はつ）をかも知（しる）へよせし高砂
の松（まつ）首（くび）あ（あ）ぐ（ぐう）て（て）ぞ（ぞう）
ぞ（ぞう）ぞ（ぞう）の（の）積（つも）りく（ぐう）て老（おい）の鶴（つる）
ぞ（ぞう）ぞ（ぞう）ぞ（ぞう）の（の）書（しる）夜（よる）の
起（おき）ぬ（ぬ）て松（まつ）ぞ（ぞう）ぞ（ぞう）
あ（あ）と（と）菅（すが）ぞ（ぞう）の（の）思（おも）ひ（ひ）計（はか）り

下句
音信は松ととも浦風の霧吹
袖うつくしき木陰乃雲をかけつゝ
上句
所を高砂のうへ尾上の松も年
つりて老人のなりもよりうるおやま乃
下陰の落葉かくなる迄命をつゝて
和いつまてかいつまてかいきくらく
名所尽
里人をおもふ風よ老人
老婆兼きりぶつ長寿を老人よ寿
ぬへき事乃作
作り行すてゝ高砂乃松とハ
行末の木陰をハ今木陰を
清めん社高砂乃松ハ人
住乃江の松ハ相生乃名あり面白と
住昔とい國をつゝたるゝ行とてお

生の松と言ひけり　信乃こと
古今集序に高砂住の江の松も
相生の様に覚えしとあり是此
射水津の国住吉の者是に成らんと
當前の人あれば
給へ　宇治
やうれ老人の妻
一首よ有なりぬ　さき住の江の神の

浦山国を隔てしまもいはやなる
事少なく　上ロ
萬里を隔つまき共たゝひよ通ふ心
うひの妹背の道学ぶ　上三人名
楽くも世界を覚をよ　三河
この松非精のたゝみも相生の
なそかつまし　やまあるへらて

年久しくも住吉より通ひ馴るゝ
尉と姥は松もろ共に此年まで相生の
夫婦となるものを　謂はれを聞けば面白や
扨〱先に聞えつる相生の松の
物語を所に言ひ置く謂はれはなきか
昔の人の申しゝは是はめでたき世の
例なり　高砂といふは上代の

万葉集の古の義　住吉と申すは
今此御代に住み給ふ延喜の御事
松とは尽きぬ言の葉の　栄えは古今相
おなじと御代をあがむるたとへなり
よく〱きけばありがたや今こそ不審
春の日の　ひかりやはらぐ西の海の
かしこは住吉　爰は高砂　松も

いろひ（ニテ）書も（ヨリ）長門（ヨ）海
浪おそれて國を治まる時は風枝を
動かさず代おだやかにして根まで
松をうめてたうやまれ（ヤ）
くてごとも愚やかなれども
とて豊なる君の惠こそ有難く
早川
ゆくさきの乃松の目出度謂事は物

語（クリ地）草木心なしとはいへども
花の時をしらんと陽春の德をしれ
つゝ南枝花ひらけ（サレ）初
も此松は春動ずして
花咲時をわすれず（ナ）
一年の色変ぬ
和の年千万人

ようを松うえの露乃
玉ぽくを入くゝ稚くまりて
いきるぞうとくよ。敷しまの花よ
ぞくこうや和歌こと長能之歌も
ぞ精非精乃見色みるうよりよりく
下あり。ぞ水風聲水長遠萬
物乃こゝろ。ぞ林乃煙風よ

うとき秋の虫乃地蔵よりくも
皆和奇乃姿あり。ぞ中ふと洗松
ぞ萬すよ時きて。ぞ八幡乃うとうし
ぞ秋の緑を分して。ぞ古人乃色をと
ぞ姫皇乃沖爵よ。ぞ流の程の木あり
とて吳國より。ぞ本朔より方民てきを
賞玩と。ぞ高砂乃尾上乃秋芸

すなり暁かけて霜ハ置けども
松が枝の葉色ハ同じ深みどり立よる
陰の朝夕にかけども落葉の尽きせぬハ
まことなり松の葉の散うせずして
色ハ猶正木のかづら長き世の
たとへなりける常盤木の中にも名ハ高砂の
末代のためしにも相生の松ぞめ

でたき　上歌　地　げに名をえたる松が枝の
げに名をえたる松が枝の老木の昔あらはして其名をなのり
給へや　「今ハ何をかつゝむべき是ハ高
砂住吉の相生の松の精夫婦と
現じ来りたり　「ふしぎやさてハ名所
の松の奇特を顕はして　「草木心
なけれども　「賢き代とて　「土も

本より我大君の國なればいつくも
君の代なれば住吉にまづ行きてあれにて
待ち申さんと夕波の汀なる海士の小
舟にうち乗りて追風にまかせつゝ
沖の方に出でにけりや
高砂や此浦舟に帆をあげて
月諸共に出汐の波の淡路の島陰や

遠く鳴尾の沖過ぎて、はや住の江に
着きにけり　我見ても久
しくなりぬ住吉の岸の姫松幾
世経ぬらん睦ましと君は知らずや
瑞垣の久しき世々の神神楽
夜の鼓の拍子を揃へてすゞしめ
給へ宮つ子たち　西の海檍が原の

原の浪まより　あらはれし　神松
ゆゑ　なすまや　神の宮の　引かへる
たまもうれもの　岩陰の　松根よ
ちとせ　緑を　千年の　緑
ぞよ　こそ　梅花を　折りかへよ
さき　二月や　宮居　折つ　有縁
乃屋の　やど　月住　乃　非遊
ひは歌を　あらたまよ　をよ
さ　乃　華姫の　色も　澄わ　住
つえ乃　松かき　もうつ　あれ　海
波と　日　少　非　君の　道を
ちよ　ぞ　ちよ　ちよ　ちよ　ちよ
宮　城　楽　乃　ま　ひ　け　て　万　歳　の
小　長　家　さ　ひ　ま　ん　よ　ま　で　悪　魔　を

[illegible]寿福をつくし
[illegible]萬歳楽よハ命
[illegible]相生の松風飄々乃聲そ矣
[illegible]

右之本者観世太夫織部
章句眞本令版行畢
正徳六丙申歳弥生
天保十一庚子歳孟春改正再板
皇都二条通御幸町西江入町
山本長兵衛

明治十六年十月廿九日翻刻御届
同　十七年一月　刻成發兌　定價金七錢

翻刻人　京都府平民　本田市次郎
上京區第三十組上石山町廿八番戸

京都專賣書林

北村善兵衛　風月庄左衛門　石田忠兵衛　町田與三吉　佐々木總四郎　細川清助　辻本九兵衛　福井孝太郎　竹岡文助　福井源次郎

村上勘兵衛　辻本定次郎　須磨勘兵衛　遠藤平左衛門　大谷仁兵衛　杉本甚助　大谷玄之助　明田嘉七　笹田弥兵衛　田中治兵衛

羹澤重兵衛　内藤彦一　川勝德次郎　今井七良兵衛　藤井淺次郎　近藤太十郎　澤田友五郎　西村七兵衛　西村九良右衛門　永田調兵衛